

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 二兎を追い(1年生) 二兎を追い(2年生) 二兎を獲る(3年生) 大阪で一番元気のある学校 ~ 希望進路の実現 100%と自主活動の取組み 100% ~
- 1 第一希望の進路を実現する確かな学力を養成する。
  - 2 さまざまな自主活動の体験を通して、しっかりした人権意識とグローバルな視点をはぐくみ、高い志を抱いて社会に貢献する人材を育成する。
  - 3 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 進路を実現する確かな学力の養成
    - (1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり
      - ア 生徒が生き生きと取り組む魅力ある授業づくりのために、研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
      - イ ICT を活用した授業を全教科で行い、進路実現とこれからの時代に求められる、知識・技能とそれを基にした思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。
      - ウ 一人ひとりの生徒のニーズにできるだけ応えるため、習熟度別授業、選択科目の充実を図る。
    - (2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。
      - ア 大学関係者による講演や大学見学など、進路について考える機会を用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。
      - イ 年間を通じた自習室運営、長期休業中の学習マラソンなどに学校組織として取り組み、生徒一人ひとりの学習習慣の確立を図る。
      - ウ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行い、新大学入試に向けて生徒支援のための情報共有を進める。
  - \* H30 年度入試結果(国公立 21 名、関西難関私立大学 122 名(現役 9 クラス))を 2021 年度入試で国公立大学 30 名以上、関西難関私立大学合格 150 名以上(現役 8 クラス)とする。
  - (3) 生徒の心身の健康を育み、学力向上の土台作りをする。
    - ア 遅刻・欠席を少なくするなど基本的な生活習慣及び自律的で規律ある生活態度を確立する。
    - イ 生徒が心身の健康を保ち安心して安全な学校生活を送れるよう、教育相談体制のもと学校保健の取組みの充実を図る。
    - ウ 生徒が自己や社会の在り方に関心を持ち、考え抜く力を養うための方法として読書に取り組めるよう、図書館の充実と読書啓発を進める。
- 2 自主活動の充実
  - (1) 生徒会活動をはじめとする自主活動の充実
    - ア 体育祭を本校生徒会における最大の行事として位置づけ、本校独自の学年縦割り組織により「応援」「アトラクション」「マスコット」「スタンド」の活動を通してよき伝統を継承する。
    - イ 文化祭における 3 学年それぞれの取組みの充実を図る。
    - ウ 生徒が積極的にかつ安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や環境整備に努める。
  - \* 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を 100% に近づける。
  - (2) 外部連携とボランティア活動の充実
    - ア チャリティーマラソンの実施(国内被災地やネパールへの支援)をはじめボランティア活動を積極的に推進する。
    - イ 芸能文化科による和文化の普及継承に取り組む小高連携授業や、部活動・教科活動における異校種間の交流・連携、地域連携などを継続する。
- 3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実
  - (1) 自他を尊重することのできる幅広い人権教育に計画的に取り組む。
    - ア 2020 年度からの共生推進教室設置に向けて、ソフト・ハード両面からの準備に取り組む。
  - (2) 「総合的な探究の時間」等を活用し、自らの将来に希望を持ち自己実現に向けて努力を重ねることができるよう、キャリア教育を計画的に推進する。
  - (3) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動に移すことのできる、地域社会・国際社会で必要とされる人材を育成する。
    - ア 海外への修学旅行や海外研修を経験することで、国際語である英語の習得意欲を喚起するとともに、国際社会に生きる人材として異文化体験を通じてグローバルな視点を養う。
    - イ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝の HR を利用した英単語テスト、英語学力調査、外国語指導者の効果的な活用など様々な取組み等を積極的に推進する。
  - \* 英語学力調査は平成 30 年度から全員が 4 技能校内受験を実施、2021 年度の 4 技能平均グレード 3.2 以上を目標とする。
- 4 芸能文化科の学びの推進
 芸能文化科の取組を核として、国際社会において、日本の伝統や文化を積極的にかつ自信を持って発信し交流できる人材を育成する。
  - ア 国内唯一の学科である芸能文化科の専門科目の一層の充実を図るために、特別非常勤講師や大阪芸術大学等との連携を強化する。
  - イ 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
  - ウ 芸能文化科が長年に亘って行ってきた社会貢献により構築したネットワークを活用して、応援団的ネットワーク作りを推進する。
- 5 チーム学校のさらなる資質向上と学校の魅力発信
  - ア 校内研修の充実や、校務の精選・効率化により、チーム学校のさらなるパワーアップをめざす。
  - イ “大阪一元気のある学校”としての魅力を広く発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習指導】</b>                      「ICT を使った授業は分かりやすい」については、81% (H30 : 82%) とほぼ同じ割合であった。一昨年度設置された ICT 機器を活用した授業が生徒の授業スタイルとして定着している。                      「自ら考え、発表や表現する学習活動を行っている」について、生徒は 85% (H30 : データなし) となっており、「思考力を重視した問題解決的な学習指導」について教員は、79% (H30 : 75%) となっている。本年度、授業力アップ PT で『生徒に表現力を身に付けさせるための組織的アプローチ』という成果で取り組んだ成果が着実に浸透している。</p> <p><b>【生徒指導】</b>                      「いじめについて困ったことがあれば真剣に対応」については、生徒は 84% (H30 : 83%)、保護者は 87% (H30 : 85%)、教員は 95% (H30 : 90%) と生徒、保護者、教員とも肯定的回答が上昇しており、「いじめアンケート」の複数回の実施や聞き取り、日常の生徒相談体制の整備など、組織的な対応が学校として進んでおり、次年度もさらにきめ細かい対応を行っていく。</p> <p><b>【進路指導】</b>                      「将来の進路や生き方について学ぶ機会、指導」については、生徒は 87% (H30 : 89%)、保護者は 84% (H30 : 86%) と肯定的な回答の割合が高いが、微減であり、さらに一人ひとりの適性に応じた進路指導を組織的に進め、三者面談の充実を行う。</p>	<p>第 1 回 (7/27)                      芸能文化科 卒業発表会見学後、平成 30 年度学校評価と令和元年度学校経営計画等について                      ・共生推進教室の設置に向けて、学校は、適切な人的配置や設備を教育庁に要望してほしい。                      ・「共に学び、共に育つ」教育を実践する学校の先頭に立って頑張してほしい。</p> <p>第 2 回 (11/24)                      進捗状況について、その後、校内見学(共生教室、共生職員室、チャリティーマラソン)                      ・教員も育つ環境を整えながら教員が切磋琢磨しながら資質を高めることができるよう、同僚性を構築してほしい。                      ・生徒一人ひとりに対応したさらにきめ細やかな進路指導をしてほしい。</p> <p>第 3 回 (1/30)                      平成 31 年度学校評価(案)、令和 2 年度学校経営計画(案)について</p>

## 府立東住吉高等学校

<p><b>【国際理解・ボランティア】</b> 「国際理解について学習したり国際交流に参加」については、生徒は86%（H30：83%）と肯定的な回答が3ポイント増加。家庭・地域等と連携しながらさらに内容を充実し、その成果を全生徒で共有していく。</p> <p><b>【学校運営】</b> 「校内研修は教育実践に役立つ内容」についても、教員は87%（H30：88%）と肯定的な回答が高い水準で推移しており、授業改善や生徒支援、進路支援のための研修を外部の人材を活用しながら進めており、さらに生徒の教育内容の充実に活かしていく。</p> <p>「授業公開や学校行事に参加」について、保護者は78%（H30：76%）と肯定的な回答が2ポイント増加し、今後も開かれた学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度学校評価（案）について、承認。</li> <li>・令和2年度学校経営計画（案）について、「めざす学校像」及び「中期的目標」を承認。</li> <li>・共生推進教室の設置により、共生の理念に沿った「ともに学びともに育つ」教育を推進するとともに、生徒の進路保障について府教育庁と連携しながら取り組みを進めていただきたい。</li> <li>・教員の授業力向上については、教員がお互いの強みを生かしながら学校全体として教育効果があがるような組織力の強化をお願いしたい。</li> <li>・安全安心な学校づくりをさらに推進してほしい。</li> </ul>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を実現する確かな学力の養成	<p>(1) 魅力ある授業づくり</p> <p>(2) 進路実現のための取組</p> <p>(3) 生徒の心身の健康の推進</p>	<p>組織的な「授業力アップPT」の取組を継続し、次期指導要領を見据えた校内研修・研究授業を継続して行い、授業力向上をめざす。</p> <p>「新指導要領対策PT」を立ち上げ、新学習指導要領の研究と希望進路の実現100%に向けて、カリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。</p> <p>大学や企業と連携し進学講演会などの行事を実施する。</p> <p>自習室の運営や学習マラソンの実施、学校経営推進費による懇談・質問への対応強化を図る。</p> <p>「英語教育PT」が中心となり、生徒が意欲的に英語の4技能を伸ばす取組や授業の工夫を行う。</p> <p>学年団、支援担当の状況共有を密にし、組織的な教育相談体制をさらに推進する。</p> <p>早朝の立ち番、声掛けを強化し、進路実現に向けて、基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>・校内PTによる組織的な授業づくり研修・研究授業を継続実施する。</p> <p>・「ICTによる授業工夫」の項目の評価を引き続き9割以上とする。（H30：92%）</p> <p>学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の項目の評価を80%以上（H30：75%）</p> <p>・国公立大学現役合格者数目標 25 / 360名以上（H30:21 / 360名）</p> <p>・関関同立現役合格者数 140 / 360名以上（H30:122 / 360名）</p> <p>上記 上記</p> <p>・校内PTによる情報共有と対策の提案</p> <p>・校内PTの企画により新しい取組、授業工夫を進め、センター入試結果でのリスニング得点を全国平均の95%以上にする。（H30：93%）</p> <p>・英語学力調査の1・2年生平均スコアの4技能平均グレード3.5以上を目標とする。</p> <p>（H30:3.5）</p> <p>生徒の相談体制を継続し、学校教育自己診断における教育相談の項目の肯定的回答を70%以上にする。</p> <p>（H30:69% H29:69%）</p> <p>遅刻数の1割減少 （H30:遅刻 3,186）</p>	<p>目標『生徒に表現力を身に付けさせるための組織的アプローチ』を、教員全体研修で共有後、教科ごとに研究授業 研究協議 成果報告 次年度の目標設定を全教員で共有し、今後「ヒガスマ授業スタンダード」の確立をめざす。</p> <p>・(教員)ICTによる授業工夫 82% (H30:92%) ( )</p> <p>・(生徒)問題解決的な学習活動 85% ( )</p> <p>・(教員)問題解決的な学習活動 79% ( )</p> <p>授業アンケート第1回平均3.23(H30:3.19)、第2回平均3.26 全教科昨年度比アップ ( )</p> <p>生徒対象志望校情報交換会を開催。担任面談、進路指導部相談、教科相談を充実。</p> <p>・国公立大学現役合格者数 28名 ( )</p> <p>難関校増加</p> <p>・関関同立現役合格者数 91名 ( )</p> <p>外部教育産業と連携し、生徒・教員対象分析会、相談会、外部講師による英語講習を実施。自習室の運営や30時間・100時間学習マラソンの実施、学校経営推進費によるQ&amp;Aコーナーの質問対応の充実。</p> <p>センター試験リスニング講習、授業での継続的なリスニング演習、朝の英単語テストの表彰</p> <p>1年英語レシテーションコンテストを実施。次年度は、学習オリエンテーションの実施により、学習習慣のさらなる定着をめざす。</p> <p>・センター入試でのリスニング得点：全国平均の87.4% ( )</p> <p>・英語学力調査の1・2年生平均スコアの4技能平均グレード4 CEFR A2（標記変更あり） ( )</p> <p>担任会議において、学年、支援担当の状況共有を密にし、支援委員会を毎週実施し、ケース会議を実施。「子どもの問題行動と支援」教職員研修を実施。安全安心な学校づくりに向けて、緊急ブログ・生徒・保護者への一斉メール配信を開始。</p> <p>・学校教育自己診断の教育相談の肯定的回答 68% ( )</p> <p>・いじめ対応についての肯定的回答 (生徒)84%(H30:83%) (保護者)88%(H30:85%) (教員)95%(H30:90%) ( )</p> <p>『予鈴時には教室に！』キャンペーンを実施。加えて各学年の遅刻指導を実施。</p> <p>・3月末時点遅刻数 3,567 12%増加 ( )</p> <p>・早朝の教職員の立ち番を増員、生徒による駐輪指導開始</p>

## 府立東住吉高等学校

2 自主活動の充実	<p>(1) 自主活動の充実</p> <p>(2) 外部連携・ボランティア活動の充実</p>	<p>体育祭応援団の規律ある活動を継続し、生徒に集中と切替えの意識を徹底させるとともに、生徒会執行部、団活動(応援、アトラクション、マスコット、スタンド)、体育祭実行委員会の活動を通じて、綿密な計画と準備過程の大切さを体感させる。</p> <p>芸能文化科生徒及び部活動所属生徒による異校種交流や地域連携、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を継続して行う。</p>	<p>学校教育自己診断における体育祭・文化祭、学校行事の項目の肯定的回答9割以上を維持する。</p> <p>学校教育自己診断におけるボランティアに関する項目の肯定的回答を90%以上にする。(H30:88%)</p>	<p>体育祭・文化祭、学校行事の生徒による運営。 ・学校教育自己診断の学校行事の肯定的回答91% ( )</p> <p>芸能文化科卒業発表会に中学生・一般参加。生國魂神社ヤング能等出演。八尾市の小学生160名に芸能文化体験講座2回実施。「家庭基礎」全クラス湯里保育園実習、防災教室実施。小学生対象理科実験教室 年6回約180名参加。保健委員会がクリーンアップキャンペーンを実施。チャリティーマラソンに約400名が参加し、ネパール、東北被災地へ寄付。 ・学校教育自己診断のボランティアの肯定的回答87% ( ) ・地域敬老イベント、近畿中学校長会OB会と連携したイベントを新たに実施 ( )</p>
3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実	<p>(1) 人権教育の取組</p> <p>(2) キャリア教育の取組</p> <p>(3) 国際理解教育の取組</p>	<p>本校の「人権教育マップ」の計画に沿って、3年間通しての人権教育を実施するとともに人権講演会等の行事を定着させる。</p> <p>2020年度の共生推進教室設置に向けて、準備チームにより、教育内容、施設設備の準備を進める。</p> <p>卒業後の進路を考えるためのキャリア教育の取組に加え、生徒の「書く力」「まとめる力」「発表する力」を伸ばす取組を実施する。</p> <p>毎年実施している海外スタディツアーを実施する。</p> <p>海外修学旅行を継続し、連携校への訪問と来訪の受入れなど、双方向の国際交流を図る。</p> <p>英語でのコミュニケーション能力を高めるため、ホームルームの時間等を活用し、新しい取組への挑戦・継承をする。</p>	<p>・人権行事の実施 ・教職員対象の人権研修の実施 ・自己診断における人権教育に係る項目の生徒の肯定的回答を85%以上に(H30:83%) 教員の肯定的回答を78%以上に(H30:75%)する。 上記 ・「総合的な探究の時間」のシラバス等に沿って計画的なキャリア教育を進める。 ・自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」89%の維持 フィリピンスタディツアー事後アンケートで満足度90%を目標とする。 自己診断アンケートで、国際交流の質問項目の肯定的回答85%を目標とする。(H30:83%) 英語レシテーションやスピーチのコンテスト等に挑戦する。</p>	<p>障がい者理解、いじめ、命の大切さ、拉致問題について全校集会を実施。 今後、国際交流や共生成果発表会の実施により、共生推進教室に対する教職員・生徒の理解をさらに進める。 ・学校教育自己診断の人権教育の肯定的回答 (生徒)84% ( ) (教員)72% ( )</p> <p>教育課程の決定、施設工事、教材準備を実施。個別の支援計画、指導計画を職員会議で共有。中学校進路主事研修で説明。( )</p> <p>生徒対象志望校情報交換会を開催。担任面談、進路指導部相談、教科相談を充実。外部教育産業と連携し、生徒・教員対象分析会、相談会、外部講師による英語講習を実施。再掲 ・自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」87% ( ) フィリピンスタディツアーに23名参加。全校集会で英語・日本語による成果発表会を実施。 ・参加生徒事後アンケートの肯定的回答100% ( ) 台湾育成高級中学校との全クラス交流、修学旅行で連携交流。「志学」学年集会でクラス代表が発表、「社会と情報」で分析と研究発表。 ・学校教育自己診断の国際交流の肯定的回答86% ( ) 英語レシテーションコンテストを実施。( )</p>
4 さらなる資質向上と魅力発信	<p>(1) 教職員研修の充実</p> <p>(2) 校務の精選・効率化</p> <p>(3) 学校の魅力発信</p>	<p>経験年数の多い教職員から少ない教職員向けに教員力アップにつながる教職員研修を計画的に実施する。</p> <p>授業改善などの校内研修を継続して行う。</p> <p>校務の精選と効率化を組織的に行う。</p> <p>ブログ、ホームページ等での魅力発信を行うとともに、学校案内やチラシなどの作成により広く情報発信をする。</p>	<p>自己診断「校内研修は教育実践に役立っている」を引き続き80%以上にする。 上記 時間外勤務時間の1割以上減少をめざす。(H30:教員年間総時間33,990時間) チラシの作成・配付や説明会への参加等により、普通科・芸能文化科・共生推進教室について、広報活動を行う。</p>	<p>職員会議後、教員による生徒対応、保護者対応、授業力向上等のミニ研修を実施。「子どもの問題行動と支援」教職員研修実施 ・学校教育自己診断の校内研修の教員の肯定的回答87% ( ) 毎月時間外勤務時間の個票配付及び半期における前年度との比較データを配付し、また、職員会議で4月からの合計時間、昨年比を提示し注意喚起した。7時～19時の自習室当番、生徒指導立ち番は勤務時間を変更。 ・時間外勤務時間総時間13%減少 ( ) 学校案内を全面改訂、校長ブログ更新85回、緊急時連絡ブログを充実し、保護者向け文書配付。( )</p>